

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	KINETIC SAPPHIRE		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル	
RG	2.490	△RG	0.038	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：KINETIC SAPPHIRE

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

比較対照ボール：KINETIC RUBY

フレアーの幅 インチ

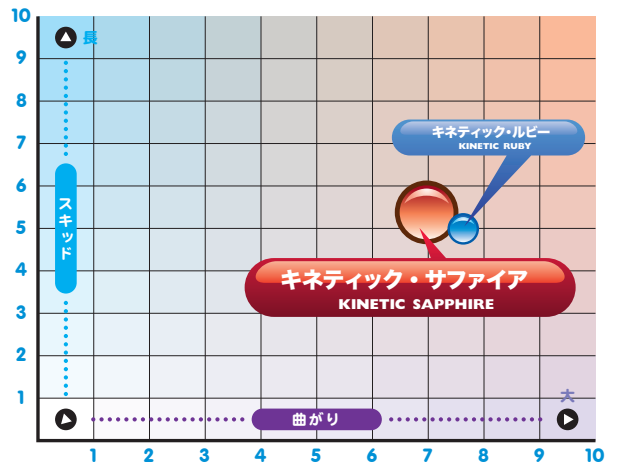
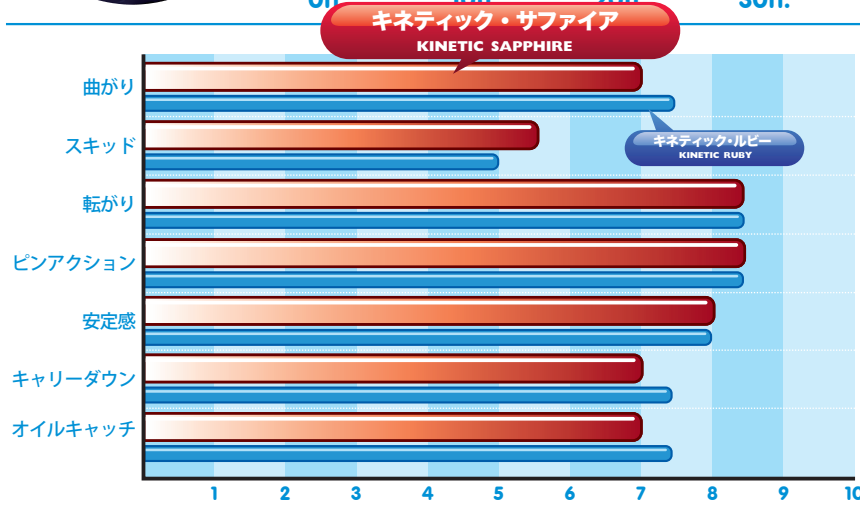
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

2007年8月に初代KINETICが発売され、現在に至るまでKINETICの血統を受け継いだボールが数多く発売されました。日本で大変人気のあったナンバーシリーズ”505C”や”408C”はShuttle Coreの代表作であり、TRACK=Shuttle Core、TRACK社を語るうえでこのCore Technologyは欠かせないものとなっています。

そこから月日は流れ、現在のカバーストックでKINETICに新たなパフォーマンスを求めたのがKINETIC EMELARDでありKINETIC RUBYでした。この二つは各々同じ性能領域でありながらバックエンドを重視するスペックとMidからの安定感でコントロール重視のスペックに分かれ、TRACK社の中でもMedium Light領域に個性を見出しています。

今回発売するKINETIC SAPPHIREは上記二つで使用されているModified KINETIC Coreを使用して、EMERALDやRUBYとはまた違う性能を我々に魅せてくれます。

今回はEMERALD、RUBY、SAPPHIREの3種で比較投球しましたが、スキッドの割合はEMERALD>SAPPHIRE>RUBYとなり、3つの中ではちょうど中間に属します。Hookの移行は早い順からRUBY>SAPPHIRE>EMERALDとなり、曲がりの大きさもこの順になります。SAPPHIREはEMERALDのように先での鋭い動きを特徴としているのでもなく、RUBYのように曲がり始めのプレーキの早さを見出しているのでもありません。まずは遅めのコンディションでしっかりとスキッドすること。そして鋭い入射角よりも曲がり始めたら回転を継続しながらピンヒットに至ること。私の中でのKINETICの原点は常に転がり続け、しっかりと曲がり続けること。このSAPPHIREもEMERALDやRUBYにはない、遅めのコンディションで”転がり”と回転方向”を見事にピンヒットまで持続できていると思います。多くのボールがMedium以上で発売される中、その後のボールチョイスがスコアメイクの鍵になると思います。その一つが伝統のあるKINETICと言えるでしょう。

特記事項

このSAPPHIREはいわば”Kinetic Coreらしい”仕上がりと言えます。中盤から後半に向けて、信頼性と実績で選ぶのであればKINETICです。